

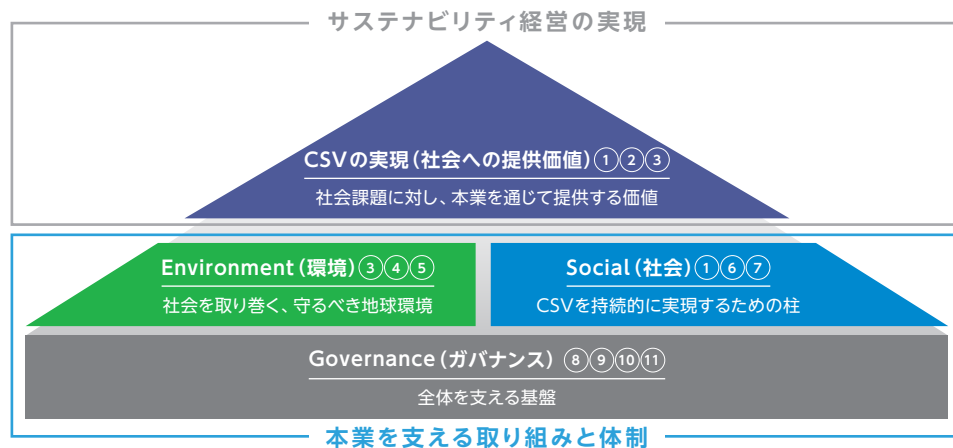
マテリアリティ

● マテリアリティの考え方

サトーは、「持続可能な社会の発展に貢献する」という企業理念の下、本業とサステナビリティを一体のものとして捉え、2019年にマテリアリティ(重要課題)を特定し、執行役員会に直属するサステナビリティ推進委員会の下で取り組んできました。

現在、私たちを取り巻く環境は急速に変化し、企業の社会的責任に対する期待の高まりや技術革新の加速といった新たな課題への対応が求められています。

これらの変化を経営戦略に反映し、私たちが進むべき方向を明確にするため、マテリアリティの見直しを行い、以下の通り体系化しました。



- マテリアリティ**
- | | | |
|------------------------------------|-----------------|---------------------|
| ① 社会の生産性と安全性の向上 (Socialに関連) | ④ 気候変動対応 | ⑧ 持続可能なサプライヤーマネジメント |
| ② イノベーションを通じた社会価値創造と企業価値向上の実現 | ⑤ 自社の資源循環の取り組み | ⑨ コーポレートガバナンス |
| ③ サーキュラーエコノミーへの貢献 (Environmentに関連) | ⑥ 従業員エンゲージメント向上 | ⑩ コンプライアンス |
| | ⑦ 人権の尊重 | ⑪ リスクマネジメント |

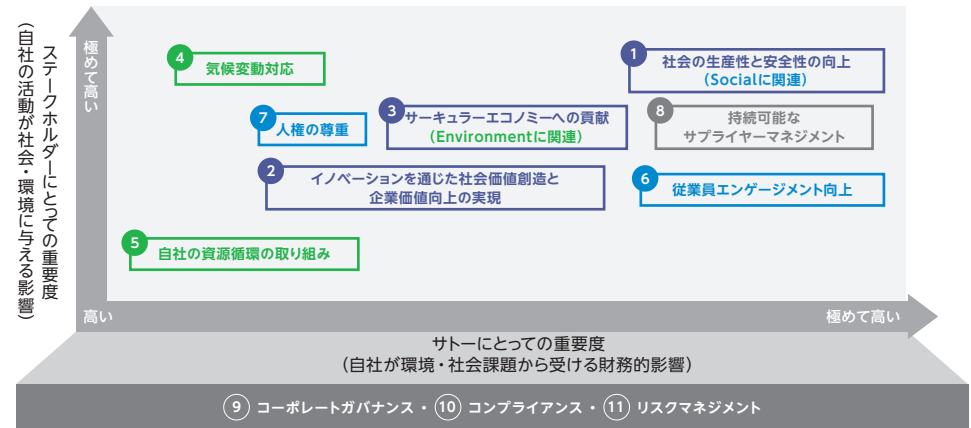
新しいマテリアリティは、経営のリーダーシップの下、中期経営計画が示す「サステナビリティ経営の推進」の指針となるものです。

健全なガバナンスを基盤とし、地球環境保全や人権尊重などの社会課題の解決に積極的に取り組むとともに、従業員のエンゲージメントを高め、コミュニティへの貢献を強化することで「社会の公器」としての責任を果たします。その上で、イノベーション志向によるビジネス変革と技術革新を推進し、私たちの強みである自動認識技術をさらに高度化することで、持続的な事業成長と新たな価値創造の両立をめざします。

マテリアリティに関連するより詳細な情報は、サトーWebサイトでもご覧いただけます。最新の取り組みや指標などをあわせてご確認ください。

[WEB](#) 詳しくは[重要課題の特定](#)をご覧ください

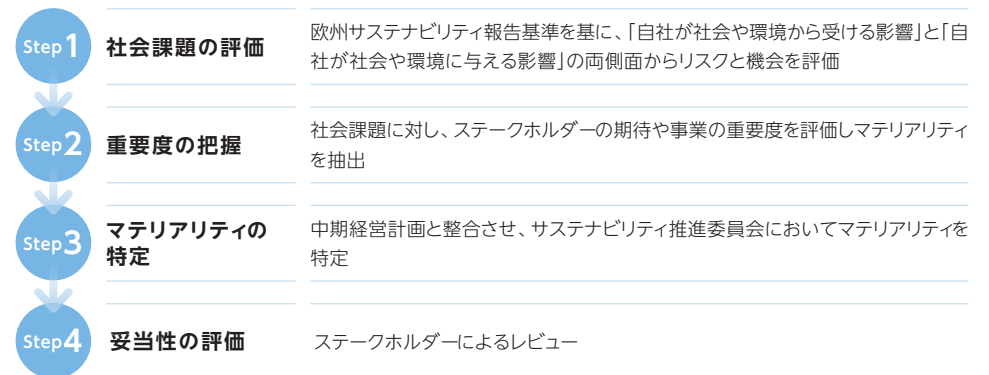
● マテリアリティマップ



● 検討プロセス

マテリアリティの特定では、社内取締役ならびに執行役員による討議を行い、気候変動や人権などの環境や社会課題の変化が自社の事業活動に与える影響をリスクと機会の観点で精査し、マテリアリティを設定しました。

なお、マテリアリティは担当役員によるKPIおよび目標を決定した後、サステナビリティ推進委員会において実施状況を検証します。また、事業環境の変化や社会動向を踏まえ、定期的に見直しを行います。



マテリアリティ CSV・地球環境

● 知的財産（知的資本）

お客さまの現場課題を解決する商品の提供を通じて生まれた知的財産は、サトーの競争力の源泉であり、重要な経営資源です。サトーは、社会課題に対し本業を通じて提供する価値（CSV）をマテリアリティの一つに位置付け、イノベーションを通じた社会価値創造と企業価値向上の実現をめざしています。その実現に向け、中期経営計画の下、関係部門と連携した横断的な取り組みを進め、現業の成長のみならず、将来を支える知財創出にも注力しています。技術革新や新領域・新市場での事業創出に向けては、IPランドスケープの活用を通じて、戦略的な知財創出と国内外でのポートフォリオ強化を推進しています。外部共創による「タギング」の高度化や新規事業の選定においては、ビジネスインテリジェンスを活用し、知財観点からも意思決定の高度化を図る取り組みを開始しています。今後も、社会課題の解決に資する知的財産を適切に保護・活用し、より豊かで持続可能な世界社会の発展と、サトーの持続的成長および企業価値の向上をめざします。

WEB 詳しくは[知的財産](#)をご覧ください

● 地球環境（自然資本）

私たちは、地球環境の保全が人類共通の重要課題であることを認識し、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を推進しています。

再生可能エネルギーの導入や使用済み製品の回収およびリサイクルによる省資源化を進めるとともに、環境マネジメントの強化によってその効果を検証し、持続的な成果につながる体制を整備しています。

こうした取り組みを強化するとともに、社会的な要請へ対応していくため、2024年9月に環境方針を改訂し、地球環境への深刻な影響の緩和に向けて、サトー全従業員の指針となる行動指針を策定しました。

● 気候変動対応

温室効果ガス（GHG）排出量削減による地球温暖化抑止は、持続可能な社会の実現のために必須の活動となっています。

私たちは、この実現に向けて2030年度までにScope1およびScope2の温室効果ガス排出量を2019年度比で50%削減し、2050年度には実質ゼロ（カーボンニュートラル）とする目標を設定しています。当社はこれまでGHG排出量削減の基準年を、Scope1、2を2016年、Scope3を2021年としていましたが、蓋然性と実効性を総合的に考慮した結果、全ての基準年を2019年に統一しました。

GHG排出量の実績と目標

CO₂排出量（単位：t-CO₂eq）

対象範囲	項目*	2019年度実績 （基準年度）	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	2030年度目標
グローバル	Scope 1、2	14,019	10,592	14,061	11,404	7,010
	2019年度対比	—	△24.4%	0.3%	△18.7%	△50%
日本	Scope 3	317,836	321,951	324,463	329,219	222,485
	2019年度対比	—	+1.3%	+2.1%	+3.6%	△30%

※Scope1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）

Scope2：他社から供給された電気、熱、上記の使用に伴う間接排出

Scope3：Scope1、2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）

Okil-Holding、JSC、OKIL-SATO X-Pack Co., Ltd.を除きます

● 変動要因分析

海外の主要なプリンター製造拠点および日本国内の主な拠点において再生可能エネルギーの利用を推進したことが、GHG排出量の削減につながりました。特に、2023年度のGHG排出量増加の要因となっていた日本国内の主要拠点である北上事業所において、CO₂フリー電力の利用を再開したことが、Scope2排出量の大幅な改善に寄与しました。これらの取り組みの結果、サトー全体でのGHG排出量は前年対比で約19%の削減となりました。

TOPICS

ハードウェアの製造拠点における再生可能エネルギーの利用

温室効果ガス排出量削減の具体的な取り組みとして、SATO Vietnam Co., Ltd. (SVC) では、国際的な再生可能エネルギー証書であるI-REC（アイレック）を活用し、2024年10月より100%再生可能エネルギー由来の電力調達を開始しました。ハンドラベラーおよびプリンターの主要な製造拠点であるSVCでは、年間約1,228MWh*の電力を消費しており、全て再生可能エネルギーへと切り替えられます。

さらに、2025年3月からはプリンターの主要な製造拠点であるSATO Malaysia Electronics Manufacturing Sdn. Bhd. (SMM) においても同様の取り組みを開始予定です。SMMの年間消費電力は約2,096MWh*であり、こちらも再生可能エネルギー由来の電力に切り替えられます。

これにより、当社のプリンターおよびハンドラベラーの主要製造拠点では、全ての電力が再生可能エネルギー由来となり、年間約2,143tのCO₂排出量削減効果が見込まれます。

※電力使用量は2023年度実績

WEB 詳しくは[Environment（環境）](#)をご覧ください

マテリアリティ 人的資本

● 人的資本経営

サトーでは、自社の事業モデルにおいて持続的に価値を生み出す源泉は「人」であることを認識し、「従業員が財産」という視点に立っています。新マテリアリティにおいてもSocial領域として「従業員エンゲージメント向上」と「人権の尊重」を掲げ、旧マテリアリティ項目や、その他の人的資本経営上の重要テーマを包含しています。将来的に「多様な人財が働きがいを感じて成長し活躍できるようなグローバルでの『適所適材』の実現および人財関連のガバナンス体制の確立」をめざし、国内・海外それぞれの現状を踏まえた各種人的資本経営課題に取り組むために人財開発委員会^{※1}にて、事業継続や戦略実行に必要な中核人財の育成や人財マネジメント施策の検討と意思決定を行っています。また、人財開発委員会の「分科会」というかたちで、執行役員が自らアクションを講じる機会も設けており、2024年度は「ダイバーシティ分科会」として3つのチームが「女性フォーラムの開催」「外国籍従業員活躍のためのアンケートやディスカッション実施・セミナー開催」「女性・障がい者雇用促進のための活動」などを行い、その様子を社内SNSや掲示板を通じて従業員へ情報発信しました。

● 従業員エンゲージメントの向上

サトーでは、過去に国内・海外別々に行っていたエンゲージメントサーベ이를、2023年度より全世界で共通化して毎年実施しており、サーベイ参加率もグループ全体で93%（2024年8月実施）と高い水準です。結果を踏まえてグループ各社および本社部署・部門・拠点別に改善アクションプランを策定し、その後のモニタリングを人財本部と人財開発委員会に行うというかたちで、タイムリーに課題を把握して改善を行うPDCAサイクルを回しています。KPIとしてグループ全体での「エンゲージメントスコア^{※2}」の65%（2024年度時点）を2030年度までに70%にすることを掲げるとともに、2025年度から執行役員のKPIにも入れることを決定しました。

● エンゲージメント向上に向けた取り組み

前述の人財開発委員会「ダイバーシティ分科会」を2025年度より「エンゲージメント向上分科会」に再編し、エンゲージメントサーベイ結果からの課題としての「働き方改革・人事制度」「多様な人財のやりがい・活躍促進（DE&I）」「キャリア開発」というテーマでの活動を実施中です。中核人財育成はこれまでの取り組みや育成課題を踏まえて、育成施策や人財流動化施策などが国内・海外それぞれで進められています。また、(株)サトーは、2015年10月に健康経営宣言を行って以降、2017年から9年連続で健康経営優良法人認定されています。部署・拠点別での健康促進の取り組みを推奨するとともに、健康サーベイ

の実施や特定保健指導実施率の改善、海外拠点も参加してのオンラインスポーツイベントの開催など健康経営に取り組み、社内全面禁煙や休肝プログラム（健康のため飲酒をしない日を設ける取り組み）（ともに国内）などをスタートしています。



女性フォーラム

上記以外のサトー独自の取り組み

- 従業員が経営トップや管理職に対し会社を良くする創意・工夫・気付いたことの提案や考えとその対策の報告を日々直接提出する活動である「三行提報」「一石伝波」と、その提案内容に応じた表彰の実施
- 企業理念の一部を成す「クレドを体現した行動」を従業員から公募し、その中から優れた行動を表彰する「Credo Awards World Cup」
- お客さまの現場課題を解決するアイデアや創意工夫を知的財産として保護する取り組みを推進する「発明表彰制度」

● 人権の尊重

サトーでは、世界規模での人権の尊重・配慮を重要課題と捉えています。2024年度には、人権デューデリジェンスの一環として、外部専門家の協力を得て、人権ロングリスト^{※3}に基づく当社の人権関連施策の評価を実施しました。それに基づき、人権方針について改訂を行うとともに、人権デューデリジェンスのアクションプランとアンケート項目を策定し、サステナビリティ推進委員会で共有しました。今後、新マテリアリティに基づき、他の領域との足並みを揃えながら人権デューデリジェンスを実施していきます。

継続的な実施が必要な人権教育については、2021年度に導入した国内・海外従業員向けのLMS（ラーニング・マネジメント・システム）である“E.D.G.E^{※4}”を活用して「人権尊重」についての理解を全世界に浸透すべくコンテンツの充実と周知徹底を実施していく方針です。

また、サトーは従業員が心と身体の健康を保ち、安全に働くことができるよう安全配慮に努めています。各部署の代表者による安全衛生委員会を定期的に開催し、職場安全チェックなど従業員の労働災害防止への施策に取り組んでいます。

▶WEB 詳しくは [Social \(社会\)](#) をご覧ください

※1 人財開発委員会：2022年8月に設立。指名・報酬諮問委員会の下部組織であり、日本籍執行役員全員で構成され、委員会を毎月開催

※2 エンゲージメントスコア：従業員のエンゲージメントにダイレクトに関連する5項目に対する肯定的回答率

※3 人権ロングリスト：「ビジネスと人権」の26項目の人権リスクをベースとし、他の規範・ガイドライン・他社事例でカバーしたリスト

※4 E.D.G.E：Engage（参加する）、Develop（開発する）、Grow（成長する）、Evolve（進化する）の頭文字から命名。「エッジ」と呼ぶ

マテリアリティ CSVの実現

お客さま課題の変化とサトーのソリューション

昨今、外部環境の変化により、企業が直面する課題はより複雑かつ多様になってきています。単一の企業や現場だけでは対応しきれないケースも増えており、業界や領域をまたいだ連携やデータ活用が求められています。

例えば、医療分野では、血液製剤が献血から輸血に至るまでの各工程で、状態情報を正確かつ効率的

に記録・管理する仕組みが不可欠です。また、循環型経済の実現に向けては、再生材を安定的に供給するために、使用済み製品の回収・分別・再資源化といった静脈物流の可視化が必要です。

こうした課題に対し、サトーは「タギング」ソリューションを通じて情報の可視化を図り、トレーサビリティ構築を支援することで、新たなお客さま課題解決に貢献しています。

外部環境

- 気候変動
- 資源枯渇
- 責任ある生産・消費の追求
- 人口減少・労働力不足
- 法規制の厳格化
- 地政学リスクの高まり

お客さま課題

- 原材料の安定調達
- 循環型経済への転換
- 原材料の出所や製造過程の透明性向上
- 業務の自動化・省人化
- トレーサビリティ・情報開示
- サプライチェーンの可視化・冗長化

サトー

タギングの高度化により価値提供範囲拡大



※1 AEP: Application Enabled Printingの略称

※2 SATO AEP CLOUDは欧州で登録された商標です

マテリアリティ CSVの実現

タギングの高度化 (Perfect and Unique Tagging)

従来のタギングでは、同じ商品には同一IDが付与され、情報の読み取りも手動や半自動で行われていました。一方、高度なタギングである「Perfect and Unique Tagging (PUT)」では、温度や位置などの状態情報の履歴を個別にひも付けるため、同種商品でも個別IDが必要です。情報は全自動で取得され、正確かつタイムリーな記録が可能となり、国や業界を越えたサプライチェーン全体での一元管理が実現します。特に、血液製剤のように、献血者情報、製剤時の処理方法、保存状態などを個別に履歴管理

する必要がある製品においては、PUTにより人手を介さず高精度な情報管理が可能となり、安全性と効率性の向上につながります。現在は主にヘルスケア市場で実証実験が始まっていますが、技術開発の視点とコスト低減により、サーキュラーエコノミーや、物流DX（デジタルトランスフォーメーション）など他分野への展開も進めています。

既存タギング

情報レベル

同種商品は個品でも同ID

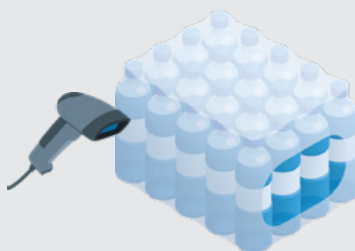
自動化レベル

手動／半自動

活用レベル

現場・シーン単独

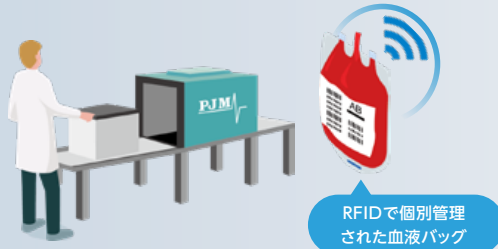
事例

標準タギング
組み合わせ

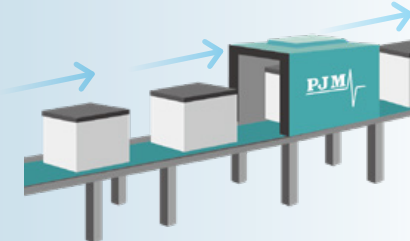
同種商品でも個品ごとに個別ID

半自動

サプライチェーン横断

高度タギング
(Perfect and Unique Tagging)

全自動



マテリアリティ CSVの実現

トレーサビリティ課題解決事例 (Perfect and Unique Tagging)

献血された血液は、血液センターに運ばれた後、血液製剤として調製されます。その後、医療機関へと輸送され、さまざまな医療目的で使用されます。

血液製剤の管理には多くの項目があり、命に関わる業務であることから、高い正確性が求められます。しかし、医療現場では人手が限られており、いかに効率的に管理を行うかが課題となっています。

こうした課題に対し、サトーはタギングソリューションを通じ、正確かつ効率的な管理体制の構築を支援し、安全で質の高い医療の提供に貢献しています。

2024年末には、営業リソースの積極的な投入と需要の拡大により、グローバルでの商談件数が前年比の7倍に増加しました。今後はこれらの商談を着実に受注へとつなげられるよう、動きを一層強化していく考えです。



Phase Jitter Modulation

サトー独自のRFID技術

特長

- 高速読み取り
- 正確性
- RFIDの弱点「積層」「金属」「水」に強い



VOICE (お客様の声)

病院の声：現在は血液製剤の在庫管理にとどまっていますが、PJMの導入により検体の追跡・管理も可能となるため、さらなる業務効率化が期待されます。

血液センターの声①：現状では、血液製剤を出荷した後の各病院やストックポイントの在庫状況を即時に把握することが困難ですが、PJMを活用することで、リアルタイムかつリモートでの管理が現実的になってきました。

血液センターの声②：他社の製品やサービスとパッケージ化されており、使い勝手が良いと感じています。

VOICE (従業員の声)

サトーの強みは、RFIDにおける一般的な課題とされる液体の影響を受けずに、高速・高精度・高信頼な読み取りを実現するPJM RFIDを提供できる唯一の企業であることです。学会への積極的な参加を通じてこの優位性を発信するとともに、ソリューション開発パートナーとの連携を通じて、認知度の向上と社会的な理解の深化に取り組んでいます。



SATO Europe GmbH **Marina Scrobogna**

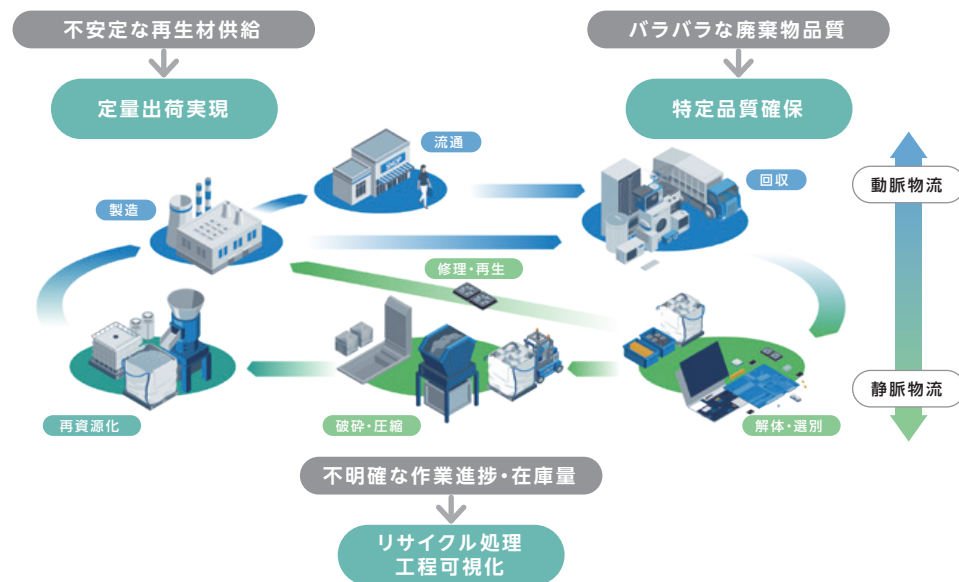
マテリアリティ CSVの実現

トレーサビリティ課題解決事例（新領域・サーキュラーエコノミー）

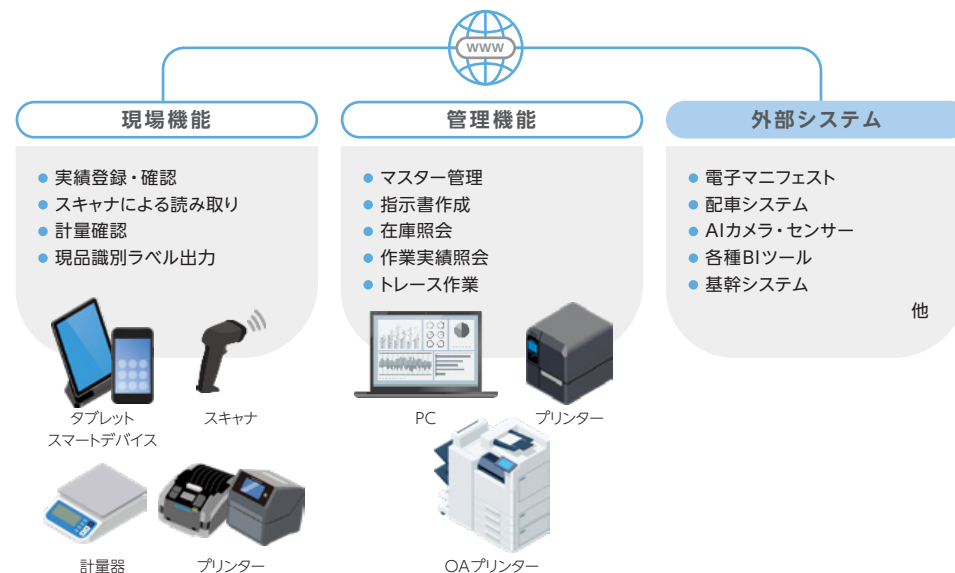
循環型経済への移行が急務となる中、サトーは静脈物流（使用済み製品の回収・分別・再資源化）の情報化を通じて資源循環の実現に向けた課題解決に取り組んでいます。長年培ったトレーサビリティの知見を活かし、2025年には資源の回収・再利用の履歴を可視化する「Trace eye® Circular Economy

（トレースアイ® サークュラーエコノミー）」（特許出願中）を上市しました。展示会や販促活動を通じて商談を創出し、社会課題の解決と提供価値の向上を通じて持続的な業績成長をめざします。

資源循環実現の課題



サーキュラーエコノミー向け資源循環トレーサビリティシステム



VOICE (お客様の声)

資源循環を実現するには、廃棄物から高品質な循環資源を製造する必要があります。サトーのトレースシステムで、どのような廃棄物がどこから、どのくらいリサイクルの現場に運ばれ、どのように加工されたかをデジタル管理し、循環資源の使用企業に共有することが可能となりました。この仕組みを活用し、資源循環をより効果的に推進していきます。

株式会社ナカダイホールディングス 代表取締役 中台 澄之様



VOICE (従業員の声)

資源循環トレーサビリティシステムにより、再資源化プロセスにおける情報の断絶を解消し、資源循環の高度化に貢献します。

リサイクル企業さまと、製造からリサイクルまでを一気通貫で担いたいと考えるメーカー様、製品に含まれる素材や構成情報を明示・共有する「デジタル・プロダクト・パスポート」の導入を先導する企業さまへの活用にも拡大していきます。

株式会社サトー 新市場戦略部 塩谷 雄介



マテリアリティ CSVの実現 ありたい姿

サトーはこれまで、タギングによって得られる情報の質を高めることで、お客さまへの提案の幅を広げ、さまざまな課題解決に取り組んできました。

例えば、プリンター、ラベル、リーダー、ソフトウェア、RFID、センサーなどを一体化したソリューションを提供することで、お客さまの業務の最適化を支援し、それまでの「正確」「省力」「省資源」「安心・安全」「環境」に加えて、「感動」「Well-being」といった多様な価値の提供に注力しています。

今後、こうした提案を支える「現場力」を活かし、あらゆる現場のモノや人に情報をひも付けていくとともに、PUTを通じて、サプライチェーン全体を横断するトレーサビリティの確保を進めていきます。また、静脈物流など、これまで十分にタギングが行われてこなかった分野の開拓に取り組み、「Perfect and Unique Tagging」を活用し、あらゆるものが情報化され、社会のうごきが最適化されている未来の実現に貢献する」ことをめざします。

ありたい姿

Perfect and Unique Taggingを活用し、あらゆるものが情報化され、
社会のうごきが最適化されている未来の実現に貢献する



アウトカム(CSV)

正確

省力

省資源

安心・安全

環境

感動

Well-being